

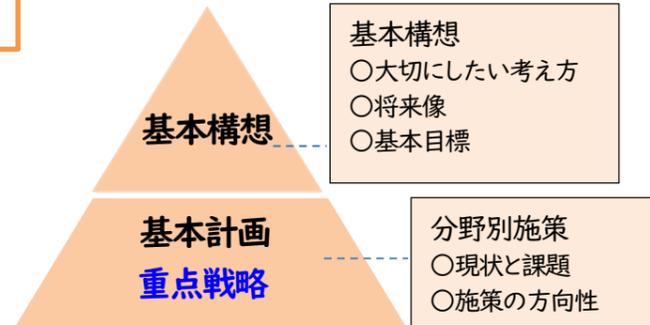
第3次日向市総合計画（案）について

2024年8月25日時点

位置づけ

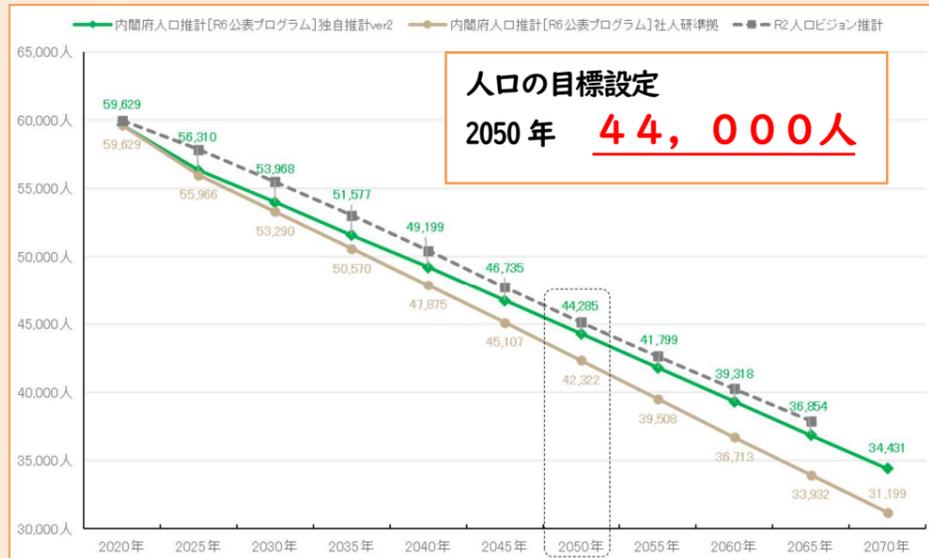
- ◆条例に基づき、総合的かつ計画的な市政運営を図るために策定
- ◆市民の皆さんと市が互いに尊重しながら、それぞれの役割に応じて主体的にまちづくりを進めていくための「**市民共有**」の指針

構成と期間



	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度	令和9 (2027)年度	令和10 (2028)年度	令和11 (2029)年度	令和12 (2030)年度	令和13 (2031)年度	令和14 (2032)年度
基本構想	基本構想							
基本計画	前期基本計画				後期基本計画			

1. 計画の策定にあたって



現状分析(人口ビジョン等)

- ・高齢化の急速な進行
65歳以上人口の構成比
1980年 8.9%
⇒ 2020年 32.7%
- ・合計特殊出生率は県や全国平均より高い
- ・婚姻率は低く、離婚率が高い
- ・ひとり親家庭の割合が高い
- ・労働力人口が減少 ⇒ 企業の労働生産性向上が必要
- ・農林業等における高齢化と後継者の不足
- ・1人の高齢者を1人の生産年齢人口で支える状況へ

時代の潮流

- ・人口減少と少子高齢化の進行
- ・安全・安心に対する意識の高まり
- ・持続可能な社会の構築
- ・デジタル化の進展
- ・グローバル化の進展
- ・ライフスタイルや価値観の多様化
- ・厳しさを増す地方財政
- ・経済情勢の変化

本市の特性

- ・温暖な気候と豊かな自然
- ・「若山牧水」などの文化・歴史資源
- ・豊かな暮らしを支える農林水産業
- ・重要港湾「細島港」を擁する港湾工業都市 ⇒ 製造業の割合が高い
- ・日向市駅を中心とした機能的でコンパクトな中心市街地

市民ニーズ(アンケート調査)

- ・回答者の76%が定住意向有り
- ・住み続けたくない理由は、「交通の利便性が良くない」が高い割合
- ・高校卒業後の予定については、「市外に住んで進学する」の割合が50.7%
- ・高校生への「将来日向市に住みたいか」との質問では、「分からない」の割合が最も高く42.6%

2. 基本構想 (令和7(2025)年～令和14(2032)年の8年間)

まちづくりで大切にしたい考え方

- 全ての人の人権が尊重されるまちづくり <人権尊重>
- 市民との協働による**共創**のまちづくり <市民協働・共創>
- 地域力の活用による持続可能なまちづくり <地域力活用>

将来像

人と自然が響き合い、にぎわいと笑顔があふれる共創のまち日向

まちづくりの基本目標

- 次代を担う心豊かな子どもたちを育む、安心して生み育てられるまち
- みんなで支え合い、いきいきと暮らせる健康長寿のまち
- 活力とにぎわいにあふれ、交流が広がり、将来にわたって誇れるまち
- 人と地球に優しく、安全で安心して生活できる災害に強いまち
- 豊かな自然と調和し、快適で利便性の高いまち
- 個性と多様性を認め合い、誰もが自分らしく幸せに暮らせる共生のまち

まちづくりの重点課題

- 日向市の未来につながる**人を育てる**
若い世代や子育て世代への支援の強化、教育力の向上、教育環境の充実
- 若者が魅力を感じる**仕事があるまちをつくる**
魅力とやりがいを感じる仕事づくり、産業人材の確保、雇用環境の充実
- 地域資源を生かして新しい**人の流れをつくる**
本市の魅力を積極的に発信する、活力あるまちをつくる
- 安全で安心して暮らせる**快適なまちをつくる**
災害に強いまちづくり、生きがいを感じて暮らせる環境づくり、地域公共交通

課題の解決

3. 前期基本計画

(令和7(2025)年～令和10(2028)年の4年間)

重点戦略(総合戦略)

地域ビジョン

子どもや若者が魅力を実感し、夢や希望が未来につながるまち日向

横断的な目標

- ① デジタル技術の活用による地域課題の解決
- ② SDGsの推進
- ③ カーボンニュートラルの実現

戦略の4本柱

- 安心して子どもを産み育てられるまちをつくる
子育て支援、子育てと仕事の両立支援の充実、教育DX
- 魅力ある仕事をつくり、稼ぐ力を高める
企業誘致、地場産品の高付加価値化、若者のUIJターン促進
- 地域資源を生かして新しい人の流れをつくる
持続可能な観光推進、シティプロモーション、市民の市政への参画
- 安全・安心で誰もが活躍できる快適なまちをつくる
防災・減災対策、生きがいづくりと健康増進、利便性の高いまちづくり